

2024年度（総合型選抜）AO選抜入学試験

文学部 東アジア研究学域

「国際方式（英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・中国語・朝鮮語）」

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
東アジア研究学域	37	18	10

2. 第一次選考<ES（エントリーシート）と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

第一次選考の評価の際に重視したのは、以下の4点です。

- ① 本学域を志望した理由として、東アジアに対する興味・関心を持つに至った経緯が明確に説明できているか。
- ② 文学部での学びおよび本学域の教学内容を理解できているか。
- ③ 高校での学習や活動にどのように取り組み、いかなる問題意識を持ったのか。また、どのような興味・関心から国際交流活動をいかに実現したかについて、具体的に説明できているか。
- ④ 東アジアを対象とする研究テーマあるいは諸問題に対して、論理的・客観的な視点で説明できる基礎的な学力を有しているか。

以上の4点について、(1) 高校時代の学習や諸活動を自身で分析・評価できているもの、(2) 入学後の学習計画および国際的な学びや活動に、積極的な関心や計画が明示されているもの、(3) 主体的な問題意識を持ちつつ、多様性を重視する姿勢・視点を有しているものについては高い評価をしました。

(2) 解答状況

多くの「志望理由書」は、これまでの学習や活動から、東アジアに関心を持った経緯を説明できていたと思います。また、自身の興味・関心にもとづき、大学にてどのような学びをしたいのかについて、具体的に述べられていたと思います。

他方で、朝鮮語・中国語への強い関心を述べるものの、両言語を用いていかなる学びや研究がしたいのかについて不明瞭なものがありました。言語はあくまでツールであり、このツールをいかに用いることで、いかなる自己実現を成し遂げるのかが大切であると考えます。また、特定の地域や分野に興味・関心が偏り、本学域の教学内容に沿わない記述が散見されました。特定の地域や分野への強い関心を否定はしません。ただ、そこから東アジアを志向する広い視野を持つことも大切なことだと考えます。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

第二次選考では面接試験を実施しました。評価の際に重視したのは以下の4点です。

- ① 高校時代の学習や諸活動と、これによって学んだこと、思考したこと。
- ② 本学域を志望した理由および東アジアに対する具体的な関心。

③ 大学にてどのような学びをしたいのか、その目的および具体的な計画。

④ 大学での学びと卒業後の進路との関わりについての考え。

以上の4点について、質問の意図に沿って、自身の言葉でわかりやすく述べた受験生に対しては、高い評価をしました。

(2) 解答状況

多くの受験生が質問に対して明確な返答ができていたと思います。出願書類の内容をより分かりやすく説明したり、具体的なエピソードを交えながら説明したりするなどの工夫が見られました。他方で、事前に準備したであろう内容を読み上げるような返答であったり、あるいは準備した内容から返答しようとし、結果として質問の意図を取り違えてしまったりする受験生がいました。

(3) 試験（面接）内容

本学域の面接では、上項（1）の4点についての質問のほかに、出願時に提出した語学外部試験の証明書にもとづき、朝鮮語・中国語の運用能力の確認を行いました。具体的には、朝鮮語あるいは中国語の短い文章をテキストにして、まず、受験生はテキストを黙読し、次に、テキストの内容についての質問に回答しました。この質問とその回答は、朝鮮語・中国語で行いました。朝鮮語は韓国語能力試験（TOPIK）2級程度の内容を、中国語は中国語検定4級よりも多少難しい内容を設定しました。

(4) 出題（面接）の意図

面接では、本学域での学びを具体的にイメージできているかどうか、海外プログラムなどの国際交流に意欲的に取り組もうとしているかを確認すると同時に、その学びを通じて、自身の将来像を具体的に想見できているかを確認しました。

なお、朝鮮語・中国語での質問は、受験生が提出した検定試験の語学基準に相応する運用能力があるか否かを確認することが目的であり、語学力の高低は評価の基準としませんでした。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

本学域におけるこの入学試験の方式は、必ずしも朝鮮語や中国語の高い運用能力を持つ学生を求めているわけではありません。これまでの学生生活において東アジアに興味・関心を持ち、その興味・関心を探求していくなかで、朝鮮語や中国語の学習にも注力した受験生であれば、東アジアが抱える問題を発見する力とそれを解決する力についても、おのずと学んでいると考えています。よって、この方式の受験生には、なぜ自身が朝鮮語や中国語を学ぶのか、その目的や意識を明確に持ってほしいと思います。

また、本学域は、東アジアに対する幅広い興味関心・視野を持つ学生を求めています。特定の領域への深い関心を持ちつつ、同時に、東アジアにおける歴史や文学、社会や文化などの多様な分野への広い関心も持ってほしいと考えます。

以上